

ひょうごJCC

兵庫県協同組合連絡協議会機関誌

coop

95

2021. 11. 15

兵庫JCCは、生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の兵庫県内の協同組合組織相互の連絡提携、共通課題の実行および全国、海外の協同組合運動との連携を図ることを目的に、1984年7月7日に設立されました。「人とひとの心がふれあう、暮らし良い兵庫を目指して一協同が息づくまちづくり」を基本理念として、共通行動目標の実践に取り組んでいます。

- 1. 協同組合活動スナップ 1
- 2. 第99回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催 2
- 3. 第99回国際協同組合デー・兵庫県記念大会
兵庫JCC宣言 3
- 4. 虹の仲間づくりカレッジの取り組み 4

Contents

- 5. 今協同組合では一各協同組合からの報告一
JA（農協）／JForest（森林組合） 6
生協／JF（漁協） 7
- 6. 協同組合運動に生きる
JA兵庫中央会 教育部 主査 松井 豊仁 8

● ● ● 協同組合活動スナップ ● ● ●

ピースアクション2021【第1弾】～被爆ピアノがつなぐ平和の願い～



生協

8月19日(木)、ピースアクション2021【第1弾】としてコーラスと映画上映をけんみんホールにて開催しました。映画「おかあさんの被爆ピアノ」の上映前に、ピアノに生々しく残るガラス片の傷跡を触ったりピアノの音色を聴くことで、原爆の恐ろしさと平和の大切さを思う一日となりました。

「新型コロナウイルスワクチンの職域接種実施」



JA（農協）

JA兵庫厚生連とJA兵庫中央会は7月から9月にかけて、兵庫県農業会館で新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施しました。県連合会の他、近隣JAやJAグループ以外の農業・林業団体など参加し、合計1,000人の役職員が接種を受けました。

令和3年 豊漁祈願祭の開催



JF（漁協）

昨年、コロナ禍で中止となった豊漁祈願祭を、感染対策のもと、9月22日(水)明石市岩屋神社にて開催しました。参列した県下漁業代表者より玉串奉奠が行われ、本県水産業の繁栄と操業安全を祈願しました。

令和3年度通常総会を開催



JForest（森林組合）

8月30日(月)に兵庫県土地改良会館において兵庫県森林組合連合会令和3年度通常総会を開催しました。昨年と同様に新型コロナウイルス感染症対策として間隔を明け、最低限の人数で開催しました。

●編集発行

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫 JCC）
Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives
生協・JA（農協）・JF（漁協）・JForest（森林組合）

●兵庫 JCC 事務局

兵庫県生活協同組合連合会 TEL(078) 391-8634
兵庫県農業協同組合中央会 TEL(0794) 87-0062
兵庫県漁業協同組合連合会 TEL(078) 940-8013
兵庫県森林組合連合会 TEL(078) 381-5425

第99回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日に、世界の協同組合の仲間が心をつなげて、協同組合運動の発展を祝い、平和とより良い生活を築くために協同組合運動の前進を誓い合う日です。

兵庫 J C C は7月2日、兵庫県民会館けんみんホールで「協同の力で未来を拓く」をテーマに、第99回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催しました。前回の第98回は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止したことから、2年ぶりの開催となりました。

今回は会場参加を定員の半数以下とし、ライブ配信を行うなど、感染防止対策の上で開催し、県内の生協・J A（農協）・J F（漁協）・JForest（森林組合）の組合員や役職員182人（会場141人、オンライン41人）が参加しました。

第1部の記念式典では、主催者を代表して兵庫県生活協同組合連合会の岩山利久会長理事があいさつ。来賓である兵庫県の井戸敏三知事、神戸市の久元喜造市長、一般社団法人日本協同組合連携機構の比嘉政浩代表理事専務からはビデオメッセージをいただきました。

最後に、たじま J A 女性会の岡本民子会長が、「第99回国際協同組合デー・兵庫 J C C 宣言」を力強く読み上げ、満場一致で採択されました。

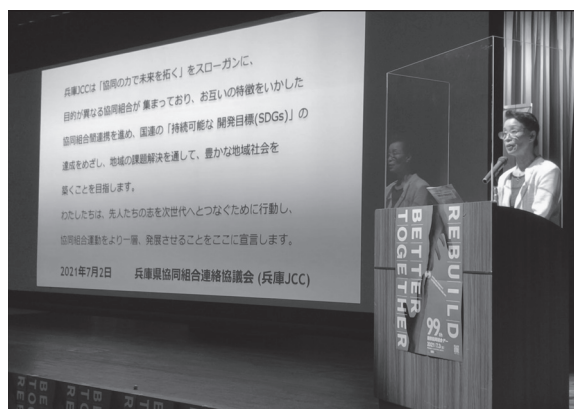
第2部では、気象予報士・防災士の正木明氏を迎え、「あなたの選択で変わる30年後の天気予報」と題して記念講演が行われました。日常目にしている天気予報は防災につながれることや、地球温暖化の問題では私たちにできる具体的事例をあげて、わかりやすくお話いただきました。



主催者あいさつをする兵庫県生活協同組合連合会の岩山利久会長理事



記念講演をする気象予報士・防災士の正木明氏



兵庫JCC宣言を読み上げるたじまJA女性会の岡本民子会長

第99回国際協同組合デー・兵庫県記念大会 兵庫JCC宣言

国際協同組合デーは、1923年に「国際協同組合同盟（ICA）」が提唱し、協同組合運動を全世界で発展させ、協同組合の理念と価値を広げ、より良い社会を築くことを目指して、開催されてきました。

本日、第99回国際協同組合デー・兵庫県記念大会を開催し、兵庫県内の生協、農協、漁協、森林組合の協同組合関係者が一堂に集まり、心を一つにして協同組合運動のさらなる発展を誓う日を迎えることができました。

今年は賀川豊彦たちの指導により、1921年に神戸、灘の両購買組合が設立されて100年目を迎えます。その間、多くの困難がありましたが、そのたびに様々な協同組合が力を結集して、乗り越えてきました。それは協同組合が地域に根ざした組織として、組合員のより良い暮らしを実現するために、相互扶助の精神に基づき、日々活動を続けてきたからに他なりません。

ICAは今年の国際協同組合デーの世界共通テーマを「協同組合は、力を合わせて、コロナ後の社会の再建に貢献します」としました。コロナ禍が人びとの健康と命を危険にさらし、経済活動を混乱させています。こうした困難な状況では、一人ひとりが自らを守る自助では限界があり、公助とともに、力を寄せ合い、協同することが大切です。コロナ禍は、私たちの社会が抱えてきた問題を露わにすると同時に、日々のくらしや仕事が多くの人たちに支えられていることを示し、多くの人たちが協同することに一層確信を持つようになりました。社会のあり方を見直す気運が高まる中、協同組合運動に対する理解をより一層広げていく必要があります。

兵庫JCCは「協同の力で未来を拓く」をスローガンに、目的が異なる協同組合が集まっており、お互いの特徴をいかした協同組合間連携を進め、国連の「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成をめざし、地域の課題解決を通して、豊かな地域社会を築くことを目指します。

わたしたちは、先人たちの志を次世代へとつなぐために行動し、協同組合運動をより一層、発展させることをここに宣言します。

2021年7月2日

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）

兵庫JCC = 兵庫県協同組合連絡協議会 = とは Hyogo-ken Joint Committee of Co-operatives

兵庫県協同組合連絡協議会（兵庫JCC）は、兵庫県内の生協、JA（農協）、JF（漁協）、JForest（森林組合）の相互交流と連携強化を目的に、1984年7月の第62回国際協同組合デーを機に設立したもので、今年で38周年を迎えました。

「虹の仲間づくりカレッジ」の取り組み

兵庫 JCC では、協同組合の次代を担う職員同士が顔の見える関係をつくり、暮らし、地域、社会の中で果たすべき役割をともに考えることを目的に、2015 年度から生活協同組合コープこうべとの共催で「虹の仲間づくりカレッジ」を実施しています。

2020 年度は新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、第 1 回を実施したのが 2021 年 2 月 25 日であり、現在、2020 年度「虹の仲間づくりカレッジ」と 2021 年度「虹の仲間づくりカレッジ」が同時並行で開催されています。

< 2020 年度「虹の仲間づくりカレッジ」の活動 >

前号で第 1 回の活動内容を報告しましたが、その後、5 月 21 日にオンラインで第 2 回を実施しました。班ごとに SDGs に紐づけた実践企画づくりを進めました。各班から企画発表をして、良い点や改善点について話し合い、それぞれ企画の目的や行動を確認しながら計画を練り、今後の実践に向け具体的なイメージを膨らませました。各班の目標と実践計画は以下の通りです。

	目標	実践計画
1 班	SDGs ⑭「海の豊かさを守ろう」	「兵庫の海苔」から海環境と兵庫の漁業について考える機会をつくる。 親子を対象に魚離れの解消を目指す。
2 班	SDGs ⑪「住み続けられるまちづくりを」 ⑫「つくる責任つかう責任」 ⑬「気候変動に具体的な対策を」 ⑭「海の豊かさを守ろう」 ⑮「陸の豊かさも守ろう」	淡路島の放置竹林の利用・循環を考える。牡蠣養殖筏材づくりや地域活性化イベントの企画・提案。
3 班	SDGs ①「貧困をなくそう」 ②「飢餓をゼロに」	廃棄されている農水産物を活用し、生活困窮者の支援につなげる。 「たすけあい食堂」の実施。

第 3 回は 11 月 2 日に実施し、各班の実践計画について実践報告を行います。



ZOOM で実施された 2020 年度 第 2 回「虹の仲間づくりカレッジ」

< 2021 年度「虹の仲間づくりカレッジ」の活動 >

2021 年度の活動はテーマを『「生産」「環境」「地域のコミュニティ」などが抱える課題を、特に若い世代（大学生）への働きかけという視点を持って「協同組合としていかに解決するか」という実践につなげる』と決めました。

第 1 回は 8 月 4・5 日にコープこうべ協同学苑で開催され、16 人が参加しました。

最初に協同学苑の浅田克己学苑長から「協同組合運動のいま、そして未来—変わる経営、変わらぬ理念—」と題した講義を受けた後、午後からは史料館の見学と、自組織の成り立ちを振り返るワークショップを通じて「協同組合の歴史と理念」について学びました。

翌日は、グループに分かれてワークショップを開催。SDGs の 17 の目標で協同組合が取り組んできた成果や課題について話し合い、午後からは実践のためのテーマ設定、テーマに沿った社会的課題の洗い出し、取り組み内容の検討や調査計画を作成しました。

虹の仲間づくりカレッジを通じて組織や分野を越えて職員交流が深まり、協同組合間協同を実践する機会にしたい、と早くも参加者から期待する声がありました。

第 2 回は 10 月 6 日にコープこうべ協同学苑で開催され、14 人が参加しました。この日は 1 日かけて、第 1 回で各グループが企画した取り組み内容をブラッシュアップしました。午前中は各グループで企画を具体化させ、午後からは取り組み内容の発表と事務局も含めた参加者全員からのフィードバックを行い、フィードバックを踏まえて各グループはさらに企画を磨き上げました。

今後、各グループで企画内容を実践に移し、第 3 回で実践報告を行う予定です。



SDGs の 17 の目標について協同組合が取り組んできた成果や課題を整理しました。



取り組み内容の検討や調査計画を発表し、意見交換を行いました。

今 協同組合では —各協同組合からの報告—

JA(農協)から

コープこうべと合同で協同組合塾を開催

JA 兵庫中央会はコープこうべと合同で平成 27 年から毎年複数回、協同組合塾を開催しています。協同組合らしさを発揮して地域に密着した活動や事業を展開していくために、同じ協同組合である JA とコープこうべの職員が、協同組合の使命や課題、職員の役割についてともに考えるとともに、相互交流をはかることをねらいとします。

JA からは主にコア人材育成研修であるみどり塾やおおい塾の塾生が参加しています。参加者からは、相互交流を図ることができ、コープこうべさんのことが理解できたと、意見が出ています。

これまで、JA とコープこうべを合わせて延べ 300 名以上が参加しています。

新型コロナウイルスの影響により昨年度は中止になり、2年ぶりの開催となりました。第1回は9月5日に実参加・オンライン参加の併用で開催し、JA から 23 名、コープから 23 名が参加しました。

午前中は一般社団法人 日本協同組合連携機構の比嘉政浩代表理事専務から「SDGs と協同組合」と題して講演をいただきました。まず、協同組合の役職員が果たすべき役割を考えた上で、協同組合役職員は SDGs をどう捉えるべきかについてお話しがありました。

午後は「講演内容で心に残ったこと、疑問に思ったこと」、「SDGs の 17 課題について、JA ・生協で過去から現代まで取り組んできたこと」、「JA ・生協でこれから取り組みたいこと（単独・合同）」の3つのテーマでグループワークを行い、比嘉専務を交えて議論が行われました。



実参加とオンラインの併用で研修を実施しました

JForest(森林組合)から

兵庫県へ会見演台を寄贈

兵庫県森林組合連合会は県知事の定例記者会見で使う演台を兵庫県へ寄贈しました。演台は、樹齢 120 年の県産スギの無垢材を使用しています。高さ 1メートルの杯形で、上部の幅が 90 センチ、奥行き 57.5 センチとなっており、従来のステンレス演台に比べて一回り大きくなっています。演台全面中央部には、赤みを帯びた部材を中心に板 5 枚を使用し、兵庫の旧五国（摂津、但馬、淡路、播磨、丹波）を表現しています。

材料のスギは、石堂則本前代表理事会長が所有する山林から切り出した、直径約 90 センチ、高さ約 40メートルのスギ 1 本を無償提供していただきました。



寄贈した会見演台

4月23日には贈呈式が行われ、兵庫県森林組合連合会からは石堂前会長と築山専務が出席しました。式典では、石堂前会長は井戸前知事に目録を贈呈し、井戸前知事からは感謝状をいただきました。



感謝状を受け取る石堂前会長



贈呈式に出席した井戸前知事と石堂前会長、築山専務

式典で石堂前会長は「兵庫の原木生産量は近畿一。県産材とともに、脱炭素社会に不可欠な林業のPRにも役立ててほしい」と話していました。

新しい演台は、5月の定例会見から使用されています。

生協から

「生活問題研究会」講演会を開催

兵庫県生協連は、1991年から「生活問題研究会」を設置しています。豊かなくらしを実現するため生活者の立場から提言する目的で発足され、社会的関心が高く、生協としても取り組んでいくべき今日的テーマについて、会員生協の役職員がメンバーとなり、日常的に接点の少ない異なる分野の生協間で互いの活動状況や持っている情報を交流しながらテーマに沿った研究を深め、各生協での取り組みに活かしていくことを目指しています。



NPO 法人兵庫セルフセンター
事務局長 脇原隆司氏

2021年度は、テーマ「農福連携（障がいがある人をはじめとする多様な人が、農業などの分野で活躍することを通じて持続可能な共生社会を生み出す取り組み）」に沿って、



対面（会場）とオンラインのハイブリッド型で開催

生協がどのような役割を果たせるかを学ぼうと、7月9日（金）、「NPO 法人兵庫セルフセンター」事務局長 脇原隆司氏にお越しいただき「農福連携の事例について」と題してご講演いただきました。今回は委員以外の方にも参加いただき、講演後の意見交流では、他県（栃木県）のワイン製造事業体の母体になっている障がい者の生活介助施設も紹介され、会場とオンラインで参加した会員生協の役員・職員にとって活動を進める意欲が更に高まる講演会となりました。農業と福祉、それぞれの立場からの深掘りを進め、10月に複数の現地視察を計画しています。

JF(漁協)から

「漁連の魚屋2号店」オープン

2021年10月28日のアリオ加古川（イトーヨーカドー加古川店・グリーンマート）の全館リニューアルに伴い、JF兵庫漁連が運営する鮮魚店「漁連の魚屋2号店」がアリオ加古川内にオープンしました。



店舗イメージ図

店舗では、兵庫県各地の魚を中心と

した高品質の水産物を対面販売しており、鮮魚以外にも、寿司、惣菜、本社冷凍品、魚に合う調味料等に加え、差別化を図るために、全国のJFグループで製造している安心安全で美味しい水産加工品も各種取扱っています。また、魚料理が苦手な方でも一歩踏み出せるよう、ひょうごの魚や旬の食べ方についてもレシピや動画で学ぶことができます。

店内は、青、白、黄の3色で統一され、「豊かな海」の色「紺碧のあお」を表現した壁の色となっており、イカ釣りランプを吊り下げて、漁業との近さもアピールするとともに、壁の一部には、江戸後期から昭和初期に淡路島の漁師が愛用した衣服「どんざ」柄のタイルを使い、ひょうごの魚をあしらった壁面アートや魚にまつわるムービーを楽しみながら、「魚を大好きになってもらえる場所」となれる店舗を目指します。

皆様のご来店をスタッフ一同お待ちしております！



「漁連の魚屋ロゴ」



SAKANAYA_HYOGO

Instagram フォロワー
お願いします！

協同組合運動 に生きる

「教育制度に協同組合を 組み込もう」

JA 兵庫中央会 教育部 主査 松井 豊仁



私が所属する JA 兵庫中央会の教育部では、県内 JA・連合会の役職員に対して、研修を行っております。協同組合と教育について私が思っていることを述べていきます。

協同組合では教育を大切にしており、協同組合原則の第5原則にも「教育・研修、広報」として掲げられています。教育というと、最初に思いつづくのが役職員教育や組合員教育ですが、私が思うのは、広く一般に向けた教育も必要なのではないか、ということです。

同じく第5原則には広報が挙げられていて、広く一般の人に協同組合を理解してもらうための広報活動が欠かせないとしています。確かに多くの人に協同組合を理解してもらうには、広報活動は続けていかなければなりません。教育制度に組み込むことは協同組合の理解を進める上で大きな効果があると考えます。

平成29年告示の学習指導要領によると、小学校5年生の社会で学習する内容として、「生産の工程、人々の協力関係、技術の向上、輸送、価格や費用などに着目して、食料生産に関わる人々の工夫や努力を捉え、その働きを考え、表現すること」になっています。この中の「人々の協力関係」で農業協同組合、漁業協同組合などの働きについて学ぶことになっています。

中学校や高校の学習指導要領では「協同組合」という言葉は見つかりませんでした。歴史の中で協同組合に関わった人のことを学ぶことはあると思いますが、協同組合そのものについて学習するわけではありません。

このように、協同組合は教育に組み込まれていますが、一次産業との関係や歴史の中で学習するにとどまっており、協同組合の基本的な考え方な

ど、協同組合を協同組合として学習する機会はないようです。そして、多くの場合、大学で協同組合について学びませんから、協同組合について学習する機会がないまま、社会に出て行くことになります。

もし、多くの人が協同組合について学び、理解をしていたならば、ここ最近の国の政策も異なったものになったのではないかと思います。現に、平成27年に農協法が改正されましたが、その際に ICA 理事会が「日本の農協法改正の方向が協同組合原則を侵害するものとする」と強い懸念を表明しました。

他にも、協同組合について理解する人が増えれば、その考え方に共感して、就職先として協同組合を理解した上で、志望する人も増えると考えられます。そうなれば、離職率の低下にもつながるのではないのでしょうか。

ICA が令和2年7月6日に発表した「協同組合の第2の10年に向けた人々を中心に据えた道のり—2020-2030 戦略計画—」では「私たちは、協同組合教育および研修を推進する。その中には、正規の教育や研究プログラムにおける協同組合の組み込みが含まれ、これは協同組合のアイデンティティの認知度を高めるのに必要な策として行う。カリキュラムでのインターンシップや就職あっせん、および学校協同組合の設立が奨励される」となっています。

教育を変えれば、人の考えが変わり、社会が変わります。協同組合がよりよい社会を築けるよう、協同組合が力を合わせて、協同組合を協同組合として学習するような教育カリキュラムが作られるように働きかけていこうではありませんか。